

# アダ・ファルコーンに 捧げるタベ

2012.3.23 N.N.Estudio



Ada Falcón

## ●アダ・ファルコーンに関する事実●

本名 *Aída Elsa Ada Falcone*。1905年8月17日、ブエノスアイレス生まれ。両親ともにイタリア系。父親については不明。母親は、前夫との間にふたりの娘を生み育てていた。アダが生まれたときから、この子がアーティストになる運命をもっていることを確信し、彼女に付き添って一生をおくった。

アダは、3才で読み書きができた(本人の話)。5才からステージ活動をはじめたので、学校にはほとんど行かなかった。13~14才のときに無声映画に出演(姉アデルマ *Adhelma* とともに)。

1925年、タンゴ歌手として初録音：Victor社。オスバルド・フレセード *Oswaldo Fresedo* 楽団と。

1929年、演劇関係者のパーティで出会った(母親が仕掛けた

「偶然の」出会い) ピアニスト・作曲家のエンリーケ・デルフィーノ *Enrique Delfino (1895 - 1967)* に認められ、Odeon社で、彼のトリオの伴奏で、18曲録音。

すぐに、同社の最大のアーティストで、タンゴ界でもっとも権力のあった指揮者・作曲家、フランシスコ・カナーロ *Francisco Canaro (1888 - 1964)* が、彼女の後ろ盾になり、彼の楽団で1938年までに約180曲あまりを録音することになる。

1934年、映画『ラジオのアイドルたち *Ídolos de la radio*』に主演。製作・音楽：フランシスコ・カナーロ、監督：エドゥワールド・モレーラ *Eduardo Morera*。共演：イグナーシオ・コルシーニ *Ignacio Corsini*。

1930年代、ファン・一般大衆にはまったく知られていなかったが、アダとカナーロは愛人同士だった。

アダは高級住宅地パレルモ・チーコ地域に、しゃれた3階建ての家を持ち、母親と住んでいた。

アダは、イタリア製の真っ赤な高級スポーツカーをもち——家も車もカナーロが買い与えたのはほぼ確実——、自分で運転して、ブエノスアイレスを横断してポンページャ地区の教会に行き、神様や聖人たちと大声で話していた。ラジオ出演や劇場公演の後にも必ず教会を訪れた。

1930年代の終わり近く、カナーロと断絶してから、もともと自己中心的・傲慢・エキセントリックと評されていたアダの奇行はますます激しくなり、人間嫌いがこうじて、出演キャンセルも多くなった。

1942年に、カナーロ楽団で2曲だけ録音。その後は、この世を去るまで、人前でうたうことは一度もなかった。同年末に、母親とともに、コルドバ州の山間サルシプエーデスの町はずれに引越し、フランシスコ修道会に属して、隠遁生活に入る。

数年後に母親は死去。貧困の中に、いどこに当たる女性とくらし  
ていた……1970年代に、オデオン社にかつての録音の印税を支払  
うよう請求したが、無理な話だった。

動脈硬化をわずらい……ひとりさまよっていたところを発見され、  
コルドバ州のへき地にある、聖カミーロ会の尼僧たちが運営してい  
る老人施設に入り、もう最後まで安らかに過ごした。2002年1月  
4日、老衰で世を去る。96才だった。

2000年1月に、ブエノスアイレスの映画人、**ローナ・ムニョ  
ス Lorena Muñoz** と、セルヒオ・ウォルフ **Sergio Wolf** が、よ  
うやく老人の家に彼女を探し当ててインタビュー (?) など撮影。  
ドキュメンタリー映画『きみの瞳に魅せられて *Yo no sé qué me  
han hecho tus ojos*』として2003年に公開された。

## 第1部

### アダ・ファルコーンの芸術と人生

高場 将美

## 1. お母さん、あなたのために

### *Para ti, madre*

詞：ベナンシオ・クラウソ *Juan P. Venancio Clauso*

曲：ホセ・モッチョーラ *José Mocchiola*

●1932年録音。以下、特記ないものフランシスコ・カナロ楽団。

奇跡に満ちた子ども時代の、あの幸せな時……黄金と蜜の 幼い  
時代、汚れを知らない祝福された年令！

世界はエデンの園だった。ばら色の理想の世界から残ったものは  
思い出だけ……。

なくしてしまった幸せの追憶——お母さん、この歌はあなたのた

めのものです。あなたの耳をやさしく撫でようと、わたしの心臓の  
ときめきが、あなたに向かって行くでしょう。

## 2. テ・キエーロ (あなたを愛す)

### *Te quiero*

●1932年録音

詞&曲：フランシスコ・カナーロ *Francisco Canaro*

わたしは あなたを愛している——だれも あなたを愛したこ  
とがないほどに、だれも これからあなたを愛することがないほどに。  
人が人生で ただ一度だけ 愛するように。

愛している、きょうだいのように、母親のように。きょうわたし  
は きょうよりもたくさん あなたを愛している。でも、明日は  
もっとたくさん愛しているだろう。わたしたちの愛は 人間を超え  
た愛……。

## 3. 心のミロンガ

### *Milonga del corazón*

●1938年録音

詞&曲：ミゲール・ブチーノ *Miguel Bucino*

わたしは荒くれ者のミロンガ、愛と熱い血でできている。1903  
年のやくざものたちが、口笛で吹いていた歌……。

場末の中庭で、わたしは藤の花が咲くのをみた。そして、だれか  
歌い手の口に入って、おかみさん連中の心をなぐさめた。街の伝説  
——今こそわたしは「心のミロンガ」と呼ばれる。

## 4. わたしは道化師

### *Soy un arlequín*

●1929年録音

詞&曲：エンリーケ・サントス・ディシエーポロ  
*Enrique Santos Discépolo*

ピアノ：エンリーケ・デルフィーノ *Enrique Delfino*、  
ヴァイオリン：アントーニオ・ロディオ *Antonio Rodio*、  
ギター：マヌエール・パラダ *Manuel Parada*。

わたしは道化師。飛び跳ね、踊る、悩みに満ちた心を隠すために。わたしを十字架にかけたのは、マグダラのマリアめかした、おまえの身の上話。わたしは自分がイエスで、おまえを救っているのだと思った……。

おまえの聲がわたしをだました。おまえは女性だった……わたしは自分の母のことを思った……それで、はりつけになった。

……なんという痛み！ あんまり痛くて、笑ってしまう！

## 5. ペカード・モルタル (地獄に落ちる罪)

### *Pecado mortal*

●1930年録音

詞&曲: アダ・ファルコーン *Ada Falcón*

きのう痛みが、あなたの扉を叩きにきたとき、そして世の中があなたの絶叫に背を向けるのを見たとき、わたしはあなたに手を差し伸べた。そして、きょうだいのように、住むところと屋根とパンを、あなたと分かち合った。

あなたと腕を組んだわたしは、あなたの救いだった。なぜなら、あなたの信じる心は、もう溺れ死ぬところだったから。そしてあれほどの逆境のさなかに、わたしの愛があなたに再び生きる気力を与えた。

きょう、あなたに黄金と快樂をくれる手は、明日は新しい愛を探しに行くだろう。そしてそのとき、きのうのように暴風があなたを、涙と痛みで押し込むだろう。そのときになってあなたは、きょうあなたが恩知らずだったことを認めるだろう。そのときこそ、どんなにわたしが心やさしい女だったか知るだろう。

裏切りの亡霊たちが、あなたの寝台のまわりを回るだろう。そこであなたが許しをこいねがっても、もうむなしいこと。わたしは、あなたの涙をふいた。わたしの心を、あなたに開いた。そしてわたしの愛情が、あなたの罪をつぐなった。

きょうあなたは、ほかの腕のぬくもりに向かって行く。苦しみもせず、わたしを置き去りにする。きのうあなたの冷酷な苦悩のなかに、わたしが愛の甘い慰めを与えたことを、あなたは忘れた。

永遠にわたしは、あなたに扉を閉ざす。わたしたちの物語は、もう死んだもの。でも、恩を忘れたあなたは、地獄におちる罪を負っている。最後には、あなたはその報いを受けずにはいられない。

●1934年映画『ラジオのアイドルたち』より●

## 6. 愛で嘘をつくのは罪

### *Mentir en amor es pecado*

詞: マルフアッティ *Amaldo Malfatti*

ジャンデーラス *Nicolás de las Llanderas*

曲: フランシスコ・カナーロ *Francisco Canaro*

(ラスト・シーンとなるワルツです。作詞は、脚本家たちです)

## 7. ガウチョの嘆き

### *Sentimiento Gaucho*

詞: フワン・カルーソ *Juan Andrés Caruso*

曲: ラファエル・カナーロ *Rafael Canaro*

パセーオ・コローン大通りの古い酒屋、信じる心をなくした人たちが行くところ。そこで、とある午後わたしが出会った、ボロ服をまとった酔っぱらい、汚れた片隅に座っていた。彼の魂に秘められた痛みを察して、わたしは心を動かされた。そこで、そばにすわって、話しかけた。その男のいつわりのない告白——友よ、耳を傾けてお聞きなさい。

……心の痛みもまた、愛ゆえのものならば、なんと美しいものだろう！ 涙があふれればあふれるほど、愛は大きくなる。愛の力の大きさ！ 愛することの偉大さ！

## 第2部

### アダ・ファルコーンのレパトリーから

峰 万里恵 (うた) 高場 将美 (ギター)

#### 1. 人生の変転

##### *Las vueltas de la vida*

詞: マヌエル・ロメーロ Manuel Romero

曲: フランシスコ・カナーロ Francisco Canaro

(ホセ・リッカルディ? José Riccardi)

歩道に足止めされて、わたしをびっしょり濡れさせる雨の下で、わたしは彼女が通り過ぎるのを見た。リムジン自動車が、なにかのケースのように、わたしから ガラスで彼女を遠く離れさせていた。

彼女はブレーキをかけ、わたしに2ペソくれた。そして 進んでいくときに投げかけた冷淡な視線で、わたしは気づいた、彼女にとってわたしは なんの重要さもない ひとりの物乞いなのだと……  
そしてわたしは自分をあざ笑った。

なんとひどい 人生の回転! きのうわたしは金持ちだった。彼女の愛を享受していた。絹とレースを彼女に着せていた。そしてくちくちの宝石類と車を買ってやった。

後にばくちが わたしの金をもっていった、ギャンブルは女性のすべてよりも悪い。金もなく、すぐにわたしは見捨てられていた。そしてきょう 食べたければ1ペソでもほどこしをもらわないといけない。

なんという変わりよう! わたしは堂々たる金持ちだった。そしてきょう 彼女はわたしのそばを ほとんど目もくれずに通り過ぎ、わたしに施しを投げる。

歩道に足止めされて、わたしをびっしょり濡れさせる雨の下で、わたしは きょう思い出した、彼女がわたしにくれた あんなに心からのキスのこと——わたしが彼女の立派な色男だったとき。

女め、心のねじけたもの! わたしは になく言い捨てて 2枚の札をビリビリに破った。それからタンゴ1曲 口笛で吹きながら、空腹に息も切れながら、わたしの貧しい小部屋へ 足を向けた。

#### 2. アンダーテ (出て行って)

##### *Andate*

詞: ロベルト・フォンタイナ Roberto Fontaina

曲: ロドルフォ・シアマレッタ Rodolfo Sciammarella

どれほどの年月、わたしはくさりを引きずり、あきらめ切って、あなたにないがしろにされるのに耐えてきたことだろう。どれほど多くの夜、わたしは悩みに閉じ込められ、あなたのひどい仕打ちから自由になりたいと望んでいたことだろう。

わたしは心やさしい女、あなたはそれに値しない。わたしはあなたを求める、あなたはわたしを痛みで満たすのに。あなたがわたしに与えた苦しみを、あなたが知ったら、わたしの胸で、自分の愛のなさに泣くことだろう。

あなたに、過去に生きてもらいたい、あの深い愛情の時間を思い出して。あなたは一夜たりとも、キスと愛撫を忘れたことはなかった。そして突然あるとき、運命がわたしの女の夢を倒した。

出て行って! わたしが苦しむだろうなんて思わないで。わたしの心は、最初の瞬間からこわれている。わたしは泣こうとも思わない。出て行って。そのほうがいい……ノー! 行かないで、ここにいて! わたしには、あなたの愛が必要。

### 3. きみの瞳に魅せられて

#### *Yo no sé qué me han hecho tus ojos*

詞&曲：フランシスコ・カナール Francisco Canaro

わたしは知らない、わたしの感じているものが愛情なのかどうか。わたしは知らない、それが情熱というものなのだろうか。ただ知っているのは、あなたに会わないと、悩みがわたしの心を転がっていくこと。

わたしは知らない、あなたの両目が わたしに何をしてしまったのか。わたしは知らない、あなたのくちびるが わたしに何をしてしまったのか——わたしにキスすると、痛みは忘れられてしまう。

わたしは知らない、どれほどの眠られぬ夜を わたしはあなたの目のことを考えて過ごしてことか。わたしは知らないそれが情熱というものなのだろうか。でも知っている、ある夜 眠っていたとき わたしは あなたのすばらしい目の夢を見たということ。

わたしは知らない、あなたの両目が わたしに何をしてしまったのか。目たちはその輝きでわたしを魔法にかける。ただわたしが知っているのは、わたしは魂の中に愛の炎で焼き付けられた あなたの姿を運んでいるということ。

あなたの両目はわたしにとって 夢の光たち。わたしがあなたのために抱いている情熱を照らしている。あなたの両目は火花たち。やさしさと愛を反映していく。あなたの両目は天国のようで、わたしを捕らえて、そのまわりから離さない。

あなたの両目はわたしにとって ひとつの忠実な魂の反映。その魂は信じる時 熱情こめて愛することだろう。

あなたの両目は わたしの道の光になるだろう。それは信じる心をもってわたしをみちびいていく、希望と輝きの小道を。なぜなら あなたの両目は わたしの愛するものだから！

### 4. ある夜 あのミロンガで

#### *Una noche en la milonga*

曲：ギジェルモ・デルチャンチオ Guillermo Del Ciancio

●ギター・ソロで聞き流してください。ここでの《ミロンガ》は、場末のダンスパーティを指しています。作曲者は、ブエノスアイレス出身ですが、アルゼンチン最南端の地方でも活動していたバンドネオン奏者です。この曲は、『ミロンガの一夜 *Una noche de milonga*』として、ロベルト・フィルポ楽団の録音があります。

### 5. エンビーディア (羨望)

#### *Envidia*

詞：ホセ・ゴンサーレス・カスティージョ José González Castillo /  
アントニオ・ボッタ Antonio Botta

／ルイス・セサル・アマドリー Luis César Amadori

曲：フランシスコ・カナール Francisco Canaro  
(ホセ・リッカルディ？ José Riccardi)

エンビーディア……羨望を感じるのは悩む者。羨望を感じるのは待っている者、全人生がただの幻滅にしか過ぎないことをさとって。羨望を感じるのは ひきょうもの。羨望を感じるのは死んでいく者、人を殺す者、人を傷つける者。彼らは許されないから！……

エンビーディア……にがい 裏切り者のエンビーディア。叫び泣く者のエンビーディア。いちばん痛みのもとになるのは、愛ゆえのエンビーディア！

わたしは善き人間に生まれた。名誉あるものに生まれた。わたしの誇り高い頭は 決して垂れたことはない。仲間のためのものだった、わたしの友情の腕。そしてわたしは手をにぎった、敵だった人と…… 決して 他人の勝利で わたしは悩んだことがない。わたしは よその人の幸せに、にがさを感じたこともない。そしてきよ

う、わたしの過去の冷酷な鏡の前で、わたしには見える——なんと恨みがわたしを変えてしまったことか！

エンビーディア……あなたのそばで愛されて、幸せでいる人へのエンビーディア。そのあいだわたしはわたしは情熱を嘔みながら。わたしの眠れないエンビーディア。敗残者としてのエンビーディア。なぜならわたしは決して、人生でひとつの夢もたなかったから。この悩みとともに生きる刑を、わたしに宣告するエンビーディア。なぜなら、愛ゆえのエンビーディアよりも大きな痛みはない！

## 6. ジーラ・ジーラ *Yira... yira...*

詞&曲：エンリーケ・サントス・ディシェーポロ  
*Enrique Santos Discépolo*

好運が——それは女——あなたに約束したはずのことを次々と裏切って、あなたとは手を切ってしまう、そんなとき。あなたがまったく住むところも食べるものもなく、行く先はなく、絶望している、そんなとき。

あなたがなにかを信じる心をなくし、取っておいたきのうのマテ茶の葉も、日に乾いてなくなってしまった、そんなとき。あなたを食わせてくれる あの金というものを探し求めて、歩き回って靴もこわれた、そんなとき。

この世界の冷淡さを——世界は耳が聞こえず、ものも言わない——ようやく、あなたは感じ取るだろう。

あなたが抱かれて死ぬために、同胞の胸を求めておとずれるすべての家のベルの電池が切れている、そのとき。あなたが締め付けられ、わたしと同じように 放り出された そのとき。

あなたのすぐ横で、あなたが手放す服を 人が試して着ているそのとき。あなたはこのバカなわたしのことを思い出す——ある

日、疲れて 吠えはじめた男のことを。

あなたはわかるだろう すべてが嘘だと。あなたはわかるだろう 愛なんてないことを。世界はなんにも知らん顔、まわれ！……ぐるぐる回れ！……

たとえあなたの人生が壊れても、たとえ痛みがあなたに嘔み付いても、決して助けを待ってはいけぬ、差し伸べられる手も、人の情けも。

## 7. 最後の盃 *La última copa*

詞：フワン・カルーソ *Juan Andrés Caruso*

曲：フランシスコ・カナーロ *Francisco Canaro*

注いでください、友よ、ただただ わたしに注いで、シャンパンのグラスの縁までいっぱいにしてください。この酒盛りと喜びの夜、魂の中にある痛みをわたしは溺れさせたい。

これがわたしの人生の最後の酒盛り。わたしの、去って行く人生……というより、あの女の跡を追って もう行ってしまったのだ。わたしの愛の重さを いちども わかることができなかつた女。

わたしは彼女を愛した、仲間よ、そして愛している。そして決して忘れることができないだろう。

わたしは彼女ゆえに酔っぱらう。でも彼女は 何をしていることか 誰が知ろう！

注いでください ボーイさん もっとシャンパンを。わたしの痛みのすべてを 飲みながら忘れてしまおう。そしてもし彼女に会ったら、友よ、彼女に言ってください——わたしの人生がもう行ってしまったのは、彼女の愛のゆえだったと。